法人名	社会福祉法人 相幸福祉会	代表者	相澤　実希
事業所名	小規模多機能型居宅 なごみ	管理者	辰尾　起子

法人・事業所の特徴	一人ひとりの生き方を尊重し支援するため、自己決定を大切にし、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、希望や思考にそった過ごし方の実現に努めています。また、住み慣れた地域で専門スタッフに見守られながら、安心、安全な環境の中でゆっくりと充実した日々が送れるよう支援しています。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	3　人	1　人	2人	1　人	人	7人	1人	16　人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	・事業所自己評価シートの目標を事業所内に張り出して、ミーティング時に確認をして話し合う。	・毎月のミーティング時に確認出来ない月もあった。 ・全職員の意見を聞き出す事が出来なかった。	・利用者の事などを理解しようとしている様子が分かった。 ・目標に対し出来る職員と出来ない職員がいるが、皆で協力している様子がうかがえる。	・事業所連絡ノートへ自己評価シートの目標を貼り、すぐ職員の目につくようにする。 ・達成できた事を、一人ひとりいつでも記入していく。
B．事業所のしつらえ・環境	・利用者・家族・地域の方々が来所時は安全に楽しく過ごしてもらえる環境を整える。	・誰でも入れる感じを心掛けている。（職員の挨拶等） ・面会予約等はなくいつでも来て過ごしてもらえるように環境に気をつけている。	・テレビの音が大きく感じた。 ・明るく楽しい雰囲気も感じることができた。 ・季節も感じることが出来た。	・季節に合わせた環境を整え、また訪れたいと思っていただける環境・雰囲気づくりを行う。 ・季節を感じる飾り付けを行う。 ・明るい職員の挨拶
C．事業所と地域のかかわり	・自治会や地域包括支援センターに声掛けし地域活動に参加していく。	・介護予防教室へ小規模の利用者も参加。 ・介護予防教室開催時受付のお手伝いへ職員参加する。	・行事やイベントはコロナ前と変わりなく行われているが、規模が小さくなって行われている。 ・事業所が地域の人々や色々な機関と関わりを持ち、活動している事が伝わった。	・今後も多くの職員が順次地域の行事やイベントに参加して、地域の方々と顔なじみになれるようにしていく。 ・事業所が主体となってできる地域活動がないか、職員間で話し合う。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・事業所・地域包括支援センターとも情報を共有し、定期的に行事やイベントに参加出来るようにしていく。	・情報を共有し行事やイベントへ利用者、職員も参加が出来た。 ・地域の小学校児童より訪問にて交流会が実施できた。	・利用者が、事業所以外でも活動できる場を広げてほしい。 ・小学校児童の訪問時はレクレーションに参加して利用者の方々と楽しく交流ができたと社協の方より。	これからも地域活動 ・健康体操教室 ・広田小学校 PTA 主催の清掃活動 ・下校時の児童見守り活動など を継続する。 これ以外で利用者と職員が参加できる地域活動がないか検討する。
E．運営推進会議を活かした取組み	・定期的に現場の職員も運営推進会議に参加し、地域の取り組みを知る事で事業所として何が出来るかを考える。	・会議に職員が順に出席する事が一部の職員しかできなかった。 ・運営推進会議に参加できた職員は自分たちの役割が理解できた様子。	・事例検討会の時地域の心配な方等発表では具体的な内容であった。 ・今は地域の心配の方の話は、守秘義務で自分達の町内の方々の話も入って来なくなった。	・運営推進会議を通して、地域にとってどのような事業所が良いのかを一緒に考えていく。
F．事業所の防災・災害対策	・業務継続計画の見直し（感染・災害時）シミュレーションの訓練を継続していく。	・シミュレーション訓練実施、下赤江在住の利用者宅より県立富山ろう学校へ避難訓練徒歩にて 20 分程。 ・感染対策の勉強会を 10 月に実施。	・シミュレーションの訓練実施を報告に委員の皆さんより上赤江・下赤江町は広田小学校が避難場所に指定になっている。 ・シミュレーション訓練実施、下赤江在住の利用者宅より県立富山ろう学校へ避難場所が違うと、広田小学校が 避難所で鍋田地下道を通り避難をしなくてはならない。 ・避難所については自治会でも鍋田地下道を通り避難するのはと声が多数聞かれている。 ・飯野地区は防災・災害の組織作りができていない。	・防災訓練や研修を行い職員一人ひとりの防災意識を高めていく。 ・地域の防災活動に参加の意思があることをアピールしていく。